

## 10: 悪性リンパ腫(ML)【成人】

### 1. WG メンバーリスト

氏名	所属	診療科
責任者 鈴木 律朗	島根大学医学部附属病院	腫瘍・血液内科
吾郷 浩厚	島根県立中央病院	血液腫瘍科
伊豆津 宏二	国立がん研究センター 中央病院	血液腫瘍科
小川 啓恭	兵庫医科大学病院	血液内科
尾関 和貴	愛知県厚生農業協同組合連合会 江南厚生病院	血液・腫瘍内科
賀古 真一	自治医科大学附属さいたま医療センター	血液科
加藤 光次	九州大学病院	血液・腫瘍・心血管内科
加藤 春美	愛知県がんセンター中央病院	血液・細胞療法部
金 成元	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科
近藤 英生	川崎医科大学附属病院	血液内科
酒井 リカ	(独)神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター	腫瘍内科
鈴木 淳司	島根大学医学部附属病院	腫瘍・血液内科
田地 浩史	愛知県がんセンター中央病院	血液・細胞療法部
名和 由一郎	愛媛県立中央病院	血液内科
水田 秀一	金沢医科大学病院	血液・リウマチ膠原病科
森島 聡子	琉球大学医学部附属病院	内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座(第二内科)
森 毅彦	慶應義塾大学医学部	血液内科
矢野 真吾	東京慈恵会医科大学附属病院	腫瘍・血液内科
横山 寿行	独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター	血液内科
石田 文宏	信州大学医学部	保健学科 病因・病態検査学
朝倉 義崇	日本赤十字社 沖縄赤十字病院	血液内科
池田 宇次	静岡県立静岡がんセンター	血液・幹細胞移植科
坂本 佳奈	自治医科大学附属さいたま医療センター	血液科
鈴木 達也	国立がん研究センター 中央病院	血液腫瘍科
多田 耕平	国立がん研究センター 中央病院	血液腫瘍科・造血幹細胞移植科
千原 大	National Institute of Health	
青木 一成	京都大学大学院医学研究科	血液・腫瘍内科学
今田 和典	大阪赤十字病院	血液内科
高橋 勉	島根大学医学部附属病院	腫瘍・血液内科
三橋 健次郎	さいたま赤十字病院	血液内科
吉田 功	独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター	血液腫瘍内科
青木 智広	名古屋大学大学院医学系研究科 分子総合医学専攻 病態内科学講座	血液・腫瘍内科学
神山 祐太郎	東京慈恵会医科大学附属病院	造血細胞治療センター

白鳥 聡一	北海道大学病院	血液内科
山崎 聡	独立行政法人国立病院機構 九州医療センター	血液内科
飯田 浩充	独立行政法人国立病院機構 名古屋医療センター	細胞療法科
岡田 隆宏	島根大学医学部附属病院	腫瘍・血液内科
河田 岳人	京都大学医学部附属病院	血液内科
式 郁恵	静岡県立静岡がんセンター	血液・幹細胞移植科
高橋 寛行	横浜市立大学附属病院	血液・リウマチ・感染症内科
田村 志宣	和歌山県立医科大学附属病院	血液内科
久納 俊祐	名古屋大学大学院医学系研究科	血液・腫瘍内科
関口 康宣	順天堂大学医学部附属浦安病院	血液内科
橋本 大吾	北海道大学病院	血液内科
平本 展大	神戸市立医療センター中央市民病院	血液内科
藤本 亜弓	島根大学医学部附属病院	腫瘍・血液内科
高松 博幸	金沢大学医薬保健研究域医学系	血液内科
水野 昌平	愛知医科大学病院	血液内科
梶 大介	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	血液内科
櫻井 政寿	慶應義塾大学医学部	血液内科
清水 里紗	川崎医科大学附属病院	血液内科
橋田 里妙	国家公務員共済組合連合会立川病院	血液内科
宮崎 香奈	三重大学大学院医学系研究科	血液・腫瘍内科学
山本 豪	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	血液内科
横山 明弘	独立行政法人国立病院機構 東京医療センター	血液内科
新田 英昭	順天堂大学医学部附属順天堂医院	血液内科
吉嗣 加奈子	静岡県立静岡がんセンター	血液・幹細胞移植科
渡邊 瑞希	京都大学医学部附属病院	血液内科

## 2. 会議開催記録(2018年1月-12月)

日時	場所	会議内容
2018/1/7	国立がん研究センター中央病院	既に提案された研究の進捗状況、今後の対策、新規研究テーマの提案、TRUMP データの追加要望項目、表示様式の改善について討論した。

## 3. メーリングリストによる意見交換 (メーリングリスト開設から 2018年12月末時点まで)

( 1849 )回

## 4. WGの今後の活動方針・抱負など

悪性リンパ腫には多くの病型があり、これに対して実施されている造血幹細胞移植も症例数は非常に多くなっています。多岐に渡る病型に対し、これまでにさまざまな研究が提案されて実施されてきましたが、まだ主要病型も網羅できていないのが現状です。学会発表・論文化された研究は多くありますが、一方で一部の研究は計画の立案に対して発表が遅れており、また学会発表はされたが論文化が進行していない研究もあります。これらを適切に公表する方向でWG会議でも検討しています。WHO分類も2017年版が一般化し、これを含めTRUMPでの収集項目に関しても、病型別に必要なものを追加するように提案を実施しています。